

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2274202395		
法人名	(株)日本ケアクオリティ		
事業所名	グループホーム草薙	ユニット名	1階
所在地	4240886 静岡県清水区草薙1丁目23番16号		
自己評価作成日	平成30年11月29日	評価結果市町村受理日	平成31年2月4日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/22/index.php?action_kouhyou_detail_2017_022_kani=true&JigvosvoCd=2274202395-00&PrefCd=22&VersionCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	セリオコーポレーション有限会社 福祉第三者評価 調査事業部
所在地	静岡県静岡市清水区迎山町4-1
訪問調査日	平成30年12月26日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

御利用者様がここに入所されて不安や寂しい思いをしない様に、職員一人一人が温かい雰囲気でご接しさせて頂いている。特別大きなイベントはしていないが、日常生活を御利用者様のペースにて共に過ごしている。散歩・日光浴・作業療法は毎日出来ています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

「その日、その時、その一瞬を」「愛と笑顔と輝きで」の事業所理念を掲げ、その一瞬一瞬を職員が大切にしようとしている。職員は、昼食の時間が遅れても利用者の要望を第一に考えて行動している。管理者は日本の風習を大切にしよう、クリスマスなど外国の風習は簡素に行い、餅つきや正月などは家族の参加を得て大々的に行っている。調査当日に運営推進会議が行われ、家族からの意見が活発に出されていた。地域包括支援センターの企画による、外出して戻らない認知症の方の発見や声掛けの訓練に地域住民と一緒に参加している。畑を手伝ってくれるボランティアを積極的に受け入れ、収穫した作物を食卓に出して季節感がわかるように工夫している。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者や職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	迷ったら理念に戻る、いつでも戻るそんなスタンスで取り組んでいる。	「その瞬間、その瞬間を大切にすること」を一番に考えて取り組んでいる。迷ったら「その日、その時、その一瞬を」という理念に戻ることを徹底し、利用者目線に合わせて行動している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	散歩に行く地域の方が話し掛けてくれる。また、地域の防災訓練の際は一緒に避難誘導をしている。	自治会の行事には積極的に参加している。市のシニアサポーターが畑の手入れを手伝ってくれている。先日、グループホーム連絡協議会が中心となり、地区で認知症の方を探して声掛けの訓練を行った。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	実際の所出来ていません。認知症高齢者に対しての勉強会がいつか開催できればと思います。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回必ず開催している。ご参加して下さる御家族様が最近限られてきた為、来年度は呼びかけを増やしていきたい。	家族や地域・行政との連携は良好で連携は取れているが、会議への参加が難しく参加人数は少ない。調査日に運営推進会議を開催したが、地域包括支援センター職員と家族2名のみでの参加であった。	会議に参加する方が少なく、当日も3名のみでの参加であった。曜日や地域住民などの参加者を増やしていくような工夫をして、運営推進会議が有意義な会議になるように期待したい。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	市町村とのつながりは良好である。疑問がある時は随時している。	介護保険の更新時や疑問等がある場合は直接出向くが、他の用件は電話で連絡している。生活支援課からの問い合わせのみではあるが、行政との関係は良好である。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束はしていない。年3回勉強会 年4回委員会をしている。	勉強会や委員会において話し合い、職員には各種会議の折に話している。身体拘束をしない事が前提で現在は行政用の書類しかないが、事業所独自の書類の作成を考えている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	勉強会だけではなく、フロア会議でもロールプレイングをして職員の理解と不安と疑問を取り除く様に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	制度を利用している職員はお一人いる。しかし、学ぶ機会や関係者との話し合いの機会は今までありません。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約に関しては時間を掛けて対応しています。契約後も随時御家族様の疑問に答えています。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	要望がある場合はいつでもお答えできる準備は出来ているが、今まで一度も無い。	今まで運営に関しての要望はなかった。家族から利用者の件で要望が出た際に取り組みを行い、利用者本人が事業所で落ち着いて生活ができるようになった。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	日常会話やカンファレンス・ミーティングにて職員の想い意見を聞いている。とても良い意見が多く参考にさせてもらっている。	特別に職員面談を行う事はないが、日々職員からの意見や要望は汲み取るようにしている。管理者はスタッフを守ることがよいケアにつながるとの思いがあり、玄関に職員個々の体温や体調表を置きメンタル面も重視している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	評価制度の導入により職員の意識が向上した事は事実。今後は評価項目・査定基準を見直しやる気を引き出したい。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	技術・知識・経験・メンタル・人間関係・プライベート等、トータル的にバランスの取れている職員は少ない。よって職員によってどこを重点に指導・支援するか？見極めが重要と最近感じている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	同じ系列のグループホームは勿論の事、同じ地域の介護事業者に対しても連絡協議会を通じ交流ははかれている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	在宅生活を施設に入所しても少しでも継続して頂きたいので、初回アセスメントには力を入れている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	在宅生活を施設に入所しても少しでも継続して頂きたいので、初回アセスメントには力を入れている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	在宅生活を施設に入所しても少しでも継続して頂きたいので、初回アセスメントには力を入れている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	グループホームはその名の通り認知症対応型共同生活介護。認知症のお年寄りと共に生活をしながら介護を行う事。その事を職員に伝え皆「家族の一員だよ」と呼び掛けている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	各担当職員は、毎月月末に「月次報告書」というお便りを御家族様に郵送し近況報告をしてコミュニケーションを取っている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	全員が出来ているとは正直言えない。しかし出来ている方もいらっしゃるのので今後は拡大させていきたい。	全員ではないが、昔からの馴染みの食堂に出かけたり、自分好みのブティックに買い物に出かけたりしている。利用者の半分近くは家族がいないため関係の継続は難しいが、新しい関係を作っていけるような支援を心がけている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずにご利用者が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	会話の架け橋になれるような声掛けをしています。傾聴は勿論ですが、職員自ら話し掛けています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約終了された御家族さまから問い合わせがあればいつでも対応出来る様になっています。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	普段の雑談の中からお聞きする事が多い。先日は七夕の短冊から御本に様の要望を聞き入れた。	日常の関わりから利用者の声を傾聴し、本人の希望や意向に沿った目標を立て、できる事から実践している。基本情報として1か月に1回チェックシートに記録し、3ヶ月に1回全職員で見直しをして一人ひとりのその時の思いや意向の把握に努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	初回アセスメント時に念入りに話を聞いている。それを元に入所後の生活パターンを考えている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	初回アセスメント時に念入りに話を聞いている。それを元に入所後の生活パターンを考えている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	計画作成担当者が中心となり各自担当者と一緒に作成している。	利用者の声をもとに、3ヶ月から6ヶ月の目標を立て、サービス内容を「課題検討用紙」や「サービス担当者会議の要点」に記録している。家族とは主に電話で対応し、話し合いの機会を作っている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	一つの情報を皆で共有する事でプランに生かす事が出来る様になった。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	常に新しい事を、常に前向きに、そういうスタイルいます。よってさまざまな取り組みを試している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	公園に散歩に行かれたり地域の老人会イベントに参加されたりしている。また、運営推進会議の際にお互いの情報を伝える事に努めている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	9割の御利用者様は入所と同時に往診医に変更している。御家族様の受診付添が中々難しい現状もあるようだ。	利用者は入居時に往診医に変更しており、定期的な診察以外に、毎日の対応も可能である。また、専門医の往診も可能で、今迄のかかりつけ医に家族の対応で受診することもできる。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	往診医の看護師とは連携が取れている。訪問看護に関しては以前の事業とは関係性が薄かったが、現在の訪問看護は親身に御利用者様を診て下さるので職員も相談しやすい。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	特に問題なく出来ている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	現在、看取り介護も出来る体制となっている。	利用者や家族には、入居時に指針の説明をして同意書を頂いている。身体機能が低下した時点で医師を中心に担当者会議を開き、家族の意向を取り直して方針の共有をしている。看取り介護ができる体制が整備されている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	初期対応・応急処置に関して自分で行う前にホーム長に報告して指示を仰ぐように伝えてあるので、ミスはありません。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回の防災訓練と定期的な備蓄品確認をしています。	年2回の防災訓練を実施している。2階のユニットでは、突発的な夜間想定訓練を昼間実施している。備蓄品としては、1週間分の食材と5日分の水を用意しており、定期的に消費している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	個人情報や排泄・入浴時のプライバシーは勿論の事、目上の人に対する礼を守り言葉使い態度に気を付けている。	職員は、プライバシー保護に関する会議で「自分がされたらどう思うか」と常に自分自身に置き換え、利用者一人ひとりを尊重した上でのサービスの提供について話し合っている。個人情報に関する書類は、番号で管理している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	思い・要望などを傾聴しお話しやすい雰囲気を出している。買い物・外出の希望があった時はほぼご希望に答えている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	自己表現が苦手な方には様子を見て声掛けし外気浴をしているが全員は出来ていない。ただ、レクリエーションに関しては自発的やって下さる事が多い。調理のお手伝いなども職員の姿を見て台所に来て下さる。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	全員ではないが、その日に着る服は出来る限りご自分で選んで頂いている。お化粧品や髪飾りネックレスなども楽しまれている方もいる。いつまでも、おしゃれや身だしなみを大切にしていきたい。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	普段の会話の中から好きなメニューをお聞きして参考にしている。片付け・準備はご利用様と一緒にする事が多い。	午前10時のティータイムでは、利用者が5～6種類の中から自由に飲み物を選んでいる。食事のメニューについては、利用者の会話や家族の意向を聞いて時間が掛かっても美味しいものを提供している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	個々の食事は毎食必ず確認し記録に残している。食事が比較的毎食少ない方に対しては栄養補助食品で補って頂いたり、水分に関してはそれぞれの好みに合った物をお出ししたり、夜間帯起きた時の飲んで頂いたり工夫させて頂いている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	口腔ケアに関しては毎食後実施している。しかし、職員の口腔衛生に対する知識不足が目立つため、来月外部講師をお招きし内部研修を実施する予定。随時咀嚼嚥下に気をつけ継続的にスキルアップを目指していく。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄記録をもとに、各利用者様のパターンを把握を毎日している。声掛け・誘導・おむつ交換を利用者様によって分けて実施している。	排泄記録をもとに、運動を取り入れて排泄を促したり、昼夜逆転せずに夜ぐっすり眠れるように、なるべく夜のパット交換はしないようにしている。排泄のタイミングを見計らって、事前に対処することでパットの使用量を減らす支援をしている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便コントロールについては主治医・訪問看護と相談しながら職員で日々調整している。原因に関しては、運動不足が主な原因と思われるので身体を動かす機会を増やしていきたい。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴を希望されるご利用者様を優先に入浴している。基本3日/1回でされる。入浴時はリラックスされるので普段聞かれない会話が聞かれる事が多い。夏場は入浴されない方もシャワーを浴びたりしている。	「入浴」ではなく「お風呂に入る」を事業所のモットーにしている。利用者の女性が2人で一緒にお風呂を楽しんでいる事例がある。午前中は活動時間として、午後から3人を目安に入浴している。今の時期はゆずの入浴剤などで香りも楽しめるように工夫をしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	傾眠されていたり体調不良の方以外は、一人一人の生活リズムに合わせている。しかし、食事の時間が決まっている為、殆どの方がだいたい同じ時間に起床されるが、入眠される時間はここに合わせている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬に関しては、殆どの職員は目的は理解しているが、副作用・用量については不十分。服用後の体調の観察や変更の提案については出来ている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	台所のお手伝いを希望される利用者様が多く、皮むき・野菜切り・炒める・仕分け・食器拭き等をお願いしている。外出を希望される方については時々ドライブに行かれる。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	ご本人から要望があった時や、食材の買い出し時以外は外出していない。しかし、ホーム内イベントとして年間計画でドライブ外出を企画している時は交代で外出に行かれる。	一部の利用者以外は、ほぼ毎日午前中の散歩に車椅子に移乗して出かけている。雨の日でも利用者の希望でたい焼きを買いに出かけたり、ユニット全員でショッピングモールに外出したりして、できる限り希望に沿った外出支援に努めている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご利用者様全員はお金をご自分で所持してはいませんが、事務所にて預り金として個人のお金を管理しており、欲しい物がある時は同行し好きな物を買に行かれる。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話・お手紙等ご家族様やご友人にご連絡される時はご支援させて頂いている。自由なやり取りをされている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	居間には季節感のある飾りやイベント外出時の写真を展示している。職員もご利用者様の生活を不快にする物音や掛け声に配慮しているが、光・色・広さに対しては不十分。	利用者の目線の合わせて、利用者と職員が一緒に作成したカレンダーや季節を感じられる飾り付けをしている。外出時の利用者の様子がわかる写真などが掲示され、利用者や来訪者が楽しめるように工夫している。また、各居室の入り口に花の名前を付けることで居室の認識をしている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	自室で一人の時間を過ごしたい時は部屋に戻られテレビなどを観たり静養したりして過ごして頂いている。気の合ったご利用者様同士会話をしたり歌を唄ったり洗濯物をたたんだりしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	なじみの家具・思い出の写真を飾られる方が多い。居心地よく落ち着ける空間を目指している。ホーム内のレクで作った折り紙等の作品を飾られる方もいる。	利用者の意向を尊重した設えになるよう心がけており、レクリエーションで作った作品を飾っている居室があった。安心かつ安全で、利用者一人ひとりの現状に合った、過ごしやすい生活の場になるよう支援している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	ご自分で出来る事は何でもして頂いている。洗濯物たたみ・戻し・お掃除・調理補助・お茶たし等、それぞれに役割があり日課となって生活している。安全で安心な生活をいつまでも提供できるように目指している。		

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2274202395		
法人名	㈱日本ケアクオリティ		
事業所名	グループホーム草薙	ユニット名	2階
所在地	4240886 静岡県清水区草薙1丁目23番16号		
自己評価作成日	平成30年11月29日	評価結果市町村受理日	平成31年2月4日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaiyokensaku.mhlw.go.jp/22/index.php?action_kouhyou_detail_2017_022_kani=true&JigyosyoCd=2274202395-00&PrefCd=22&VersionCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	セリオコーポレーション有限公司 福祉第三者評価 調査事業部
所在地	静岡県静岡市清水区迎山町4-1
訪問調査日	平成30年12月26日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

御利用者様がここに入所されて不安や寂しい想いをしない様に、職員一人一人が温かい雰囲気です。特別大きなイベントはしていないが、日常生活を御利用者様のペースにて共に過ごしている。散歩・日光浴・作業療法は毎日出ています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

※複数ユニットの外部評価結果は1ユニット目の評価票に記入されています。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	迷ったら理念に戻る、いつでも戻るそんなスタンスで取り組んでいる。	※複数ユニットの外部評価結果は1ユニット目の評価票に記入されています。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	散歩に行く地域の方が話し掛けてくれる。また、地域の防災訓練の際は一緒に避難誘導をしている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	実際の所出来ていません。認知症高齢者に対しての勉強会がいつか開催できればと思います。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回必ず開催している。ご参加して下さる御家族様が最近限られてきた為、来年度は呼びかけを増やしていきたい。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	市町村とのつながりは良好である。疑問がある時は随時している。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束はしていない。年3回勉強会 年4回委員会をしている。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	勉強会だけではなく、フロア会議でもロールプレイングをして職員の理解と不安と疑問を取り除く様に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	制度を利用している職員はお一人いる。しかし、学ぶ機会や関係者との話し合いの機会は今までありません。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約に関しては時間を掛けて対応しています。契約後も随時御家族様の疑問に答えています。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	要望がある場合はいつでもお答えできる準備は出来ているが、今まで一度も無い。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	日常会話やカンファレンス・ミーティングにて職員の想い意見を聞いている。とても良い意見が多く参考にさせてもらっている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	評価制度の導入により職員の意識が向上した事は事実。今後は評価項目・査定基準を見直しやる気を引き出したい。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	技術・知識・経験・メンタル・人間関係・プライベート等、トータル的にバランスの取れている職員は少ない。よって職員によってどこを重点に指導・支援するか？見極めが重要と最近感じている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	同じ系列のグループホームは勿論の事、同じ地域の介護事業者に対しても連絡協議会を通じ交流ははかれている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	在宅生活を施設に入所しても少しでも継続して頂きたいので、初回アセスメントには力を入れている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	在宅生活を施設に入所しても少しでも継続して頂きたいので、初回アセスメントには力を入れている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	在宅生活を施設に入所しても少しでも継続して頂きたいので、初回アセスメントには力を入れている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	グループホームはその名の通り認知症対応型共同生活介護。認知症のお年寄りと共に生活をしながら介護を行う事。その事を職員に伝え皆「家族の一員だよ」と呼び掛けている。		
19		○本人と共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	各担当職員は、毎月月末に「月次報告書」というお便りを御家族様に郵送し近況報告をしてコミュニケーションを取っている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	全員が出来ているとは正直言えない。しかし出来ている方もいらっしゃるの今後には拡大させていきたい。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずにご利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	会話の架け橋になれるような声掛けをしています。傾聴は勿論ですが、職員自ら話し掛けています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約終了された御家族さまから問い合わせがあればいつでも対応出来る様になっています。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	普段の雑談の中からお聞きする事が多い。先日は七夕の短冊から御本に様の要望を聞き入れた。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	初回アセスメント時に念入りに話を聞いている。それを元に入所後の生活パターンを考えている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	初回アセスメント時に念入りに話を聞いている。それを元に入所後の生活パターンを考えている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	計画作成担当者が中心となり各自担当者と一緒に作成している。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	一つの情報を皆で共有する事でプランに生かす事が出来る様になった。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	常に新しい事を、常に前向きに、そういうスタイルいます。よってさまざまな取り組みを試している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	公園に散歩に行かれたり地域の老人会イベントに参加されたりしている。また、運営推進会議の際にお互いの情報を伝える事に努めている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	9割の御利用者様は入所と同時に往診医に変更している。御家族様の受診付添が中々難しい現状もあるようだ。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	往診医の看護師とは連携が取れている。訪問看護に関しては以前の事業とは関係性が薄かったが、現在の訪問看護は親身に御利用者様を診て下さるので職員も相談しやすい。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	特に問題なく出来ている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	現在、看取り介護も出来る体制となっている。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	初期対応・応急処置に関して自分で行う前にホーム長に報告して指示を仰ぐようにと伝えてあるので、ミスはありません。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回の防災訓練と定期的な備蓄品確認をしています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	個人情報や排泄・入浴時のプライバシーは勿論の事、目上の人に対する礼を守り言葉使い態度に気を付けている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	思い・要望などを傾聴しお話ししやすい雰囲気を出している。買い物・外出の希望があった時はほぼご希望に答えている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	自己表現が苦手な方には様子を見て声掛けし外気浴をしているが全員は出来ていない。ただ、レクリエーションに関しては自発的やって下さる事が多い。調理のお手伝いなども職員の姿を見て台所に来て下さる。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	全員ではないが、その日に着る服は出来る限りご自分で選んで頂いている。お化粧品や髪飾りネックレスなども楽しまれている方もいる。いつまでも、おしゃれや身だしなみを大切にしていきたい。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	普段の会話の中から好きなメニューをお聞きして参考にしている。片付け・準備はご利用様と一緒にすることが多い。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	個々の食事量は毎食必ず確認し記録に残している。食事量が比較的毎食少ない方に対しては栄養補助食品で補って頂いたり、水分に関してはそれぞれの好みに合った物をお出ししたり、夜間帯起きた時の飲んで頂いたり工夫させて頂いている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	口腔ケアに関しては毎食後実施している。しかし、職員の口腔衛生に対する知識不足が目立つため、来月外部講師をお招きし内部研修を実施する予定。随時咀嚼嚥下に気にかけて継続的にスキルアップを目指していく。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄記録をもとに、各利用者様のパターンを把握を毎日している。声掛け・誘導・おむつ交換を利用者様によって分けて実施している。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便コントロールについては主治医・訪問看護と相談しながら職員で日々調整している。原因に関しては、運動不足が主な原因と思われるので身体を動かす機会を増やしていきたい。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴を希望されるご利用者様を優先に入浴している。基本3日/1回でされる。入浴時はリラックスされるので普段聞かれない会話が聞かれる事が多い。夏場は入浴されない方もシャワーを浴びたりしている。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	傾眠されていたり体調不良の方以外は、一人一人の生活リズムに合わせている。しかし、食事の時間が決まっている為、殆どの方がだいたい同じ時間に起床されるが、入眠される時間はここに合わせている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬に関しては、殆どの職員は目的は理解しているが、副作用・用量については不十分。服用後の体調の観察や変更の提案については出来ている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	台所のお手伝いを希望される利用者様が多く、皮むき・野菜切り・炒める・仕分け・食器拭き等をお願いしている。外出を希望される方については時々ドライブに行かれる。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	ご本人から要望があった時や、食材の買い出し時以外は外出していない。しかし、ホーム内イベントとして年間計画でドライブ外出を企画してる時は交代で外出に行かれる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご利用者様全員はお金をご自分で所持してはいませんが、事務所にて預り金として個人のお金を管理しており、欲しい物がある時は同行し好きな物を買に行かれる。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話・お手紙等ご家族様やご友人にご連絡される時はご支援させて頂いている。自由なやり取りをされている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	居間には季節感のある飾りやイベント外出時の写真を展示している。職員もご利用者様の生活を不快にする物音や掛け声に配慮しているが、光・色・広さに対しては不十分。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	自室で一人の時間を過ごしたい時は部屋に戻られテレビなどを観たり静養したりして過ごして頂いている。気の合ったご利用者様同士会話をしたり歌を唄ったり洗濯物をたたんだりしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	なじみの家具・思い出の写真を飾られる方が多い。居心地よく落ち着ける空間を目指している。ホーム内のレクで作った折り紙等の作品を飾られる方もいる。		
55		○一人ひとりの方を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	ご自分で出来る事は何でもして頂いている。洗濯物たたみ・戻し・お掃除・調理補助・お茶たし等、それぞれに役割があり日課となって生活している。安全で安心な生活をいつまでも提供できるように目指している。		